

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700069
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム嶺南
所在地	愛媛県大洲市肱川町山鳥坂241番地1
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

肱川の清流、近隣・施設内の桜の木、石楠花の公園、乗馬場等、大変自然環境に恵まれた施設です。  
 利用者の皆さんは落ち着いた環境の中、毎日楽しく活動的な生活を送られています。  
 各種研修や施設内の勉強会により、職員の介護に対する姿勢、また介護技術についても徐々にレベルアップしてきていると思います。  
 今後は、地域の方々との交流を深めながら、さらに良いグループホームを目指したいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にある事業所は、肱川ダムを見下ろせる高台に位置し眺望に優れている。管理者は職員とコミュニケーションが密に取れるよう心がけており、職員同士も良好な関係が築かれている。利用者一人ひとりの気持ちを大切に、管理者と職員は互いに協力し柔軟に対応していくよう取り組んでいる。協力医との医療連携体制が取れ看取り支援も実施しており、協力医が日々の健康管理を行い、利用者や家族が安心できるサービスの提供ができるよう努めている。職員の人材育成に力を入れ、職員も向学心があり今後の発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

<b>事業所名</b>	グループホーム嶺南
<b>(ユニット名)</b>	南 棟
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏 名</b>	松田 幸博
<b>評価完了日</b>	平成 25 年 9 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各フロアごとに理念をすぐに目につくところに掲示して共有できるように努めている。理念と別に個々に1年間の目標を立てて努力している。	
			(外部評価) 法人代表者が作成した理念と、ユニット毎に職員全員で考えた理念が掲示されている。また、ユニット毎に目標を立てるほか、職員一人ひとりの目標も立てるなど、意識づけを行い、サービスの向上につながるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域住民との交流は不十分である。今後、交流の場を積極的に設けていきたい。地域行事にも前向きに参加していきたい。	
			(外部評価) 保育園児や地域ボランティアの訪問、祭りごとや展示会の見学等、日頃から交流が持てるよう計画が立てられている。地域の中学生の福祉体験の受け入れをするなど、関わりをもつよう努めている。現在、地区の自治会に未加入で近隣住民との交流ができていないため、地域との関わりが持てるようさらなる取組みを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議、家族を通じて認知症の話し合いは行っているが、地域を対象とした企画等はまだ実現できていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎月の行事・入居者の状況報告、各研修や勉強会を行 い。構成員の方から意見を頂いている。地域行事の情 報等もお知らせして頂いているがなかなか参加できて いない。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、中学校長、民生委員等 の参加を得て開催している。会議では事業所の活動や 状況、課題等を報告して参加者と意見交換をしてい る。病気や介護、防災対策等幅広く議題を設け話し合 いを行っている。様々な立場の参加者に事業所の様子 を知ってもらい、意見等をもらいながらサービスの向上 に活かしている。</p>	<p>会議では意見交換は活発に行われているが、参加者の 固定化が見られる。議題に合わせて関係者や有識者に 参加を求めるなど工夫して会議を開催することが望ま れる。また、多方面の関係者とのつながりを持つこと により、地域とのつながりが深められるよう、参加メン バーを考慮し充実した運営推進会議になることを期待 したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には、市の担当者の方にも参加してい ただき、意見交換・情報交換を行っている。難題がある 時は連絡し助言を頂いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市担当者が参加しており、事業所の報 告や利用者の相談をするなど、連携を深めている。運 営についても報告や相談が気軽にできる良好な関係を 築いている。また、市が開催する研修等にも積極的に 参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束について施設内で勉強会を行う予定である。 身体拘束を実施する時は、家族の同意のもと行ってい るが毎月スタッフ全員で話し合い少しでも拘束しない よう努力している。</p> <p>(外部評価) 現在、ベッドから転落の危険のある利用者の安全面を 考え、家族に説明し同意を得て4点柵を使用してい る。玄関は日中開放し、夜間、職員の対応が困難な場 合のみ施錠している。また、言葉の拘束についても職 員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけて いる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内勉強会、また研修会への参加を行っている。身体拘束と併せて重要性を周知徹底している。少しでも変化がある時は必ず報告し要因を検討している。また、言葉がけに注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 別棟に成年後見制度を利用している入居者がおられるが、スタッフは制度についてまだ理解できていない。会社主催で研修会を行ったが、当施設でも勉強会を行う必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、本人・家族に対して管理者が書面をもって丁寧に分かりやすく説明を行い、理解・同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時には、苦情相談先の説明を行い、また意見箱を玄関に設置して家族が意見しやすい形を取っている。面会時にはその都度意見や要望を聞くようにしている。  (外部評価) 家族会や家族の訪問時に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くよう努めている。家族から意見は少なく、些細なことでも対応できるよう心がけている。遠方の家族には、事業所の新聞を同封し手紙や電話での連絡や情報交換を行っている。出された意見や要望は、職員全員で話し合い運営に反映できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者・副ホーム長は普段からスタッフから意見を聞けるよう働きかけている。意見交換の場として、業務カンファレンス・ケアカンファレンスを開催している。	
			(外部評価) 月1回の業務カンファレンスで、職員は意見や要望を伝えることができる。また、日々の業務の中で気づいたことは、その都度職員間で話し合いをしている。管理者は職員から出された意見をできる限り反映できるよう努めている。管理者は職員とのコミュニケーションを図りながら、職場環境の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資格者手当等があり、職員が資格取得に対し向上心が持てるように取り組んでいる。また、時間外も取れるよう配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社にて副部長制を設置し、2人の副部長が定期的に施設訪問してスタッフの意見等を聴き、育成に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に加入し、研修会への参加や、他のグループホームの運営推進会議に参加するなどしている。外出行事等の機会に各施設間の交流も行っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に事前調査を行い本人・家族より介護に対する希望・要望を聴いている。本人の安心を確保できるよう家族と協力して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査や契約時に家族からもよく話を聴き、ケアプランに反映できるように取り組んでいる。入居後は連絡を密に取り家族の信頼が得られるように取り組んでいる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の段階ではまず施設に慣れて安心して生活出来るよう、安全面を考慮したプランを立てている。2週間を目安に見極めを行い、本人・家族の希望に沿ったプランを立案できるよう取り組んでいる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の生活歴等を参考にし、また残存能力を生かせるようなアプローチを行い、調理や清掃等の家事を中心にスタッフが一緒になって行うよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、毎月新聞を送付、3ヶ月に1回ケアプランの状況を書面にて送付している。時々近況報告の電話をすることもある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力のもと知人の面会の支援を受けている。また、家族支援にて外泊・外出も行っている。  (外部評価) 馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しているが、利用者からの要望は少ない。電話連絡を希望する利用者に対応したり、出張の理容室を定期的に利用するなど、つながりが継続できるよう努めている。お墓参りなどの希望は、家族の協力を得て出かけるよう支援する等、関係継続ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日課の中にみんなで行う事を取り入れ、利用者同士が関わり合える場を設けている。利用者同士が励まし合われることもある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、情報提供書を作成し継続して介護が出来るように配慮している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自分の意思を伝えられる人は話をよく聴いて思いの把握に努めているが、言葉に出来ない人は行動から判断して把握するように努めている。	
			(外部評価) 職員は利用者の一人ひとりに向き合いながら、表情や動作をくみ取り、思いや希望の把握に努めている。把握が困難な利用者には、家族等から情報を聞き把握するように努めている。毎月の職員会議で話し合い、日誌に記録するなど職員全員で利用者の思いを共有し、利用者本位のサービスが提供できるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの暮らしを本人や家族から話を聴き情報を得るようにしている。他のサービスを利用していた場合は情報を提供していただき入居してからも聞き取るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝バイタル測定を行い利用者の状態を観察して異常がある場合はかかり付け医院に連絡して連携をとっている。これまでの生活で分からない事は家族に聴いて把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 更新時や状態変化があった場合はアセスメントをしっかりとケアプランを作成している。その後3ヶ月ごとのモニタリングを行い結果を話し合っている。家族にも意見を聴いて取り入れるようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、計画作成担当者と管理者を中心に話し合いを行い、介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、同意を得ている。定期的にモニタリングを行い、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録をケアプランに沿った記録にし、毎日個別に記録している。職員間の連絡は別ノートで行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 現在も本人や家族の希望があり療養マッサージを利用している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地元中学生と一緒に苗木を植えたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関の医師の往診を月2回受け、異常時には スタッフ同行のもと受診する。結果を家族に報告して いる。皮膚科・眼科・歯科も受診している。	
			(外部評価) 協力医との連携が密に取れており、利用者や家族の同 意を得て協力医をかかりつけ医とすると場合が多い。 協力医の月2回の往診で利用者の健康管理をしてお り、急変時などの対応ができる体制を整えている。専 門医の受診も職員の同行で利用することができ、利用 者が安心して継続受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回、医療連携の看護師の訪問があり、その都度状 態の報告をして指示を受け、変化があった場合でも速 やかに連絡を取れるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合、当施設より情報提供書を作 成している。入院期間は状況を確認、早期に退院でき るよう努めている。退院時は医療情報提供書を頂き当 施設で安心して生活できるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に緊急時対応希望書を取り家族の意向を確認し ている。入居後も都度希望を再確認している。看取り の方針については入居時に書面とともに説明をしてい る。	
			(外部評価) 看取りの指針を定め、協力医と連携を図りながら取り 組んでいる。状態の変化に応じ、利用者や家族等の意 向をその都度確認をしながら、思いを受け止め納得の いく最期を迎えられるよう支援している。また、急変 時に備え、管理者が事業所に待機するなど迅速に対応 できるよう体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故よってのマニュアルを作っているがまだまだ不十分な点があるので今後もマニュアルを構築していきたい。応急処置に関しては、業務カンファレンス等で周知していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は年2回行っている。今年度は9月下旬に実施予定である。備蓄品についても今後も増やしていきたい。  (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。各災害に対するマニュアルを整備し、職員の役割分担を確認しながら勉強会等を行っている。日頃から職員全員で防災意識を高めるよう努めている。備蓄品等も用意するなど、利用者の安心、安全な生活を守るため、災害対策に取り組んでいる。	災害時には職員だけの避難誘導には限界があり、今後は地域住民の参加協力を得ながら避難訓練を実施することを望みたい。運営推進会議で事業所を避難場所として利用できるよう提案していることもあり、地域住民への地道な連携への働きかけを継続していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) グループホーム嶺南も3年目に入りスタッフの声掛けも少し雑になっている。気付いた時にスタッフ間で注意をしあい。ケアカンファレンス・業務カンファレンス等でも注意していきたい。  (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快感や羞恥心に気を配り、声かけや対応を心がけている。職員間で気づいたことは、その都度注意し合っている。利用者一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) スタッフ中心の日課になっている。意思疎通の可能な利用者は自己決定できるよう働きかけているが、可能でない利用者はスタッフ中心になっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 部屋に戻って休みたい利用者には意思を尊重したりと自分のペースで過ごして頂いている。スタッフ中心の介護になりがちなので今後気をつけていきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で選ぶ場合も含めて、季節に合った服装をするなど極力心がけている。出張でカットを依頼し身だしなみ・おしゃれを心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 盛り付け等工夫し食欲が出るように努めている。野菜切り・味付けにも参加され、食器・お盆拭きにも声掛けし協力して参加していただいている。	
			(外部評価) 行事の時は利用者のリクエストを聞き、好みのメニューを提供するようにしている。職員と利用者が一緒に食卓を囲み、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。利用者は食事の準備や片付けなどできることは職員と一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食、摂取量はチェックし、摂取量の少ない利用者はおやつ等で補っている。咀嚼・嚥下状態に合わせて食事形態を変えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導、見守り、必要時には介助を行っている。週2回、義歯の洗浄消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意・便意がある利用者は声掛け・誘導にてトイレでの排泄を行っている。また、自分で出来ることはして頂き自立できるよう支援している。オムツ対応者は定期的に交換している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。ユニットに4か所トイレがあり、内2か所は車いすでもゆとりのある広さで利用者の状態に合わせて使用している。利用者の排泄状態に合わせてオムツやポータブルトイレを使用するなど、利用者に合わせて排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日排便のチェックをして、便秘気味の利用者には水分を多めにとって頂いたり、運動の声掛けを行っている。便秘の利用者は、医療連携の看護師と相談、服薬にて対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) いつでも入浴できるよう対応し、入浴拒否がある場合は時間を置いて声掛けている。入浴剤を入れ気分転換を図っている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、毎日いつでも入浴できる体制をとっている。入浴の苦手な利用者には、入浴した日を間隔表を確認しながら声かけやタイミングを工夫し、無理強いしないよう心地よい入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて、2人体制で介助を行うなど、安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中でも自室で休んでいただいたり自由に休んでもらっている。夜間は、電気を付けて休まれる利用者、電気を消して休まれる利用者と個別に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者が不安がっている時には薬の作用を説明して安心してもらうこともある。手渡し服薬確認は必ず行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の準備・後片付け、洗濯物干し・たたみ、やお手伝いをされている。また、塗り絵・歌・体操・テレビ鑑賞など様々なレクリエーション活動に参加されている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に合わせて散歩している。月に1回買い物を企画し楽しんでいただいている。家族の協力で外泊・外出される利用者もおられる。	
			(外部評価) 中庭に出て外気浴を楽しんだり運動をしたりして、利用者が自然を肌で感じリラックスできるよう取り組んでいる。近くのスーパーや道の駅に買い物に行くなど日頃から外出できるよう支援している。また、利用者の希望に応じて、家族の協力を得て外出や外泊するなど、家族とふれあう外出支援を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在自分でお金を管理されている利用者はいないが、今後本人が持ちたいといわれる利用者に対しては家族の了承を得て持っていただくよう支援したい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を希望される利用者にはスタッフが取り次ぎ電話をかけられている。電話がかかってきた場合、可能な利用者は電話口に来ていただきお話をさせていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 午前中はカーテンをしっかり開け日差しをしっかりと取り込み明るい空間を作っている。日差しが強い時はカーテンを閉め調節を行っている。テレビ音量・エアコンの温度調整等を行い心地よく生活が送れるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 高台にある事業所の大きな窓からは、周囲を一望することができる。自然な光が差し込んでくる対面キッチンから、職員は利用者を見渡すことができ、笑顔で会話をする様子が見られた。ソファや畳スペースも設けられ、自由にくつろぐことができる。リビングや廊下の環境整備が行き届いており、利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう空間づくりがされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 自由時間にはソファに座ってくつろがれたり、共用空間にいながらも適度な距離を保ち一人でゆっくりと過ごせるだけの広さがある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 以前使っていた電化製品を持ってこられたり、夫・嫁の写真を置かれたりとして自由に馴染みのある物を置いていただいている。家族に馴染みのある物と働きかけているが持ってこられない利用者もおられる。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台が備え付けられている。タンスには地震対策のつかえ棒が取り付けられている。居室の壁紙は花模様で、窓から周りの山々を見ることができ、落ち着いた雰囲気となっている。家族の写真を飾ったり、使い慣れた物が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 分かりやすい表札をつける事で本人の部屋が確認できるように工夫している。また、行動の範囲を考えてベッド・タンスの位置を個別に変えている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700069
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム嶺南
所在地	愛媛県大洲市肱川町山鳥坂241番地1
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

肱川の清流、近隣・施設内の桜の木、石楠花の公園、乗馬場等、大変自然環境に恵まれた施設です。  
 利用者の皆さんは落ち着いた環境の中、毎日楽しく活動的な生活を送られています。  
 各種研修や施設内の勉強会により、職員の介護に対する姿勢、また介護技術についても徐々にレベルアップしてきていると思います。  
 今後は、地域の方々との交流を深めながら、さらに良いグループホームを目指したいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にある事業所は、肱川ダムを見下ろせる高台に位置し眺望に優れている。管理者は職員とコミュニケーションが密に取れるよう心がけており、職員同士も良好な関係が築かれている。利用者一人ひとりの気持ちを大切に、管理者と職員は互いに協力し柔軟に対応していくよう取り組んでいる。協力医との医療連携体制が取れ看取り支援も実施しており、協力医が日々の健康管理を行い、利用者や家族が安心できるサービスの提供ができるよう努めている。職員の人材育成に力を入れ、職員も向学心があり今後の発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム嶺南

(ユニット名) 北棟

記入者(管理者)

氏名 松田 幸博 ・ 一宮 祐樹

評価完了日

平成 25 年 9 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各フロアごとに理念をすぐに目につくところに啓示して共有できるように努めている。理念と別に個々に1年間の目標を立てて努力している。	
			(外部評価) 法人代表者が作成した理念と、ユニット毎に職員全員で考えた理念が掲示されている。また、ユニット毎に目標を立てるほか、職員一人ひとりの目標も立てるなど、意識づけを行い、サービスの向上につながるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域住民との交流は不十分である。今後、交流の場を積極的に設けていきたい。地域行事にも前向きに参加していきたい。	
			(外部評価) 保育園児や地域ボランティアの訪問、祭りごとや展示会の見学等、日頃から交流が持てるよう計画が立てられている。地域の中学生の福祉体験の受け入れをするなど、関わりをもつよう努めている。現在、地区の自治会に未加入で近隣住民との交流ができていないため、地域との関わりが持てるようさらなる取組みを検討している。	地域との関わりを持つよう努めているが、日常的な交流までには至っていない。管理者の交代をきっかけとして、積極的に近隣住民に挨拶に向くなど、今後、さらに継続して関係づくりに努め、事業所が地域の一員となるような取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議、家族を通じて認知症の話し合いは行っているが、地域を対象とした企画等はまだ実現できていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎月の行事・入居者の状況報告、各研修や勉強会を行い。構成員の方から意見を頂いている。地域行事の情報等もお知らせして頂いているがなかなか参加できていない。	会議では意見交換は活発に行われているが、参加者の固定化が見られる。議題に合わせて関係者や有識者に参加を求めるなど工夫して会議を開催することが望まれる。また、多方面の関係者とのつながりを持つことにより、地域とのつながりが深められるよう、参加メンバーを考慮し充実した運営推進会議になることを期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、中学校長、民生委員等の参加を得て開催している。会議では事業所の活動や状況、課題等を報告して参加者と意見交換をしている。病気や介護、防災対策等幅広く議題を設け話し合いをしている。様々な立場の参加者に事業所の様子を知ってもらい、意見等をもらいながらサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には、市の担当者の方にも参加していただき、意見交換・情報交換を行っている。難題がある時は連絡し助言を頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者が参加しており、事業所の報告や利用者の相談をするなど、連携を深めている。運営についても報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いている。また、市が開催する研修等にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外に無断で出ようとされる利用者もおられ職員の十分な対応が行えない場合のみ施錠をしている。対象の利用者の家族には了承を頂いているが、今後、全家族の了承を得る対応が必要。	
			(外部評価) 現在、ベッドから転落の危険のある利用者の安全面を考え、家族に説明し同意を得て4点柵を使用している。玄関は日中開放し、夜間、職員の対応が困難な場合のみ施錠している。また、言葉の拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内勉強会、また研修会への参加を行っている。身体拘束と併せて重要性を周知徹底している。少しでも変化がある時は必ず報告し要因を検討している。また、言葉がけに注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、成年後見制度を利用されている利用者がおられ学ぶ機会が得られているがまだまだ不十分な点が多いので勉強会などの実施が必要。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、本人・家族に対して管理者が書面をもって丁寧に分かりやすく説明を行い、理解・同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時には、苦情相談先の説明を行い、また意見箱を玄関に設置して家族が意見しやすい形を取っている。面会時にはその都度意見や要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 家族会や家族の訪問時に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くよう努めている。家族から意見は少なく、些細なことでも対応できるよう心がけている。遠方の家族には、事業所の新聞を同封し手紙や電話での連絡や情報交換を行っている。出された意見や要望は、職員全員で話し合い運営に反映できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者・副ホーム長は普段からスタッフから意見を聞けるよう働きかけている。意見交換の場として、業務カンファレンス・ケアカンファレンスを開催している。	
			(外部評価) 月1回の業務カンファレンスで、職員は意見や要望を伝えることができる。また、日々の業務の中で気づいたことは、その都度職員間で話し合いをしている。管理者は職員から出された意見をできる限り反映できるよう努めている。管理者は職員とのコミュニケーションを図りながら、職場環境の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資格者手当等があり、職員が資格取得に対し向上心が持てるように取り組んでいる。また、時間外も取れるよう配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社にて副部長制を設置し、2人の副部長が定期的に施設訪問してスタッフの意見等を聴き、育成に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に加入し、研修会への参加や、他のグループホームの運営推進会議に参加するなどしている。外出行事等の機会に各施設間の交流も行っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に事前調査を行い本人・家族より介護に対する希望・要望を聴いている。本人の安心を確保できるよう家族と協力して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査や契約時に家族からもよく話を聴き、ケアプランに反映できるように取り組んでいる。入居後は連絡を密に取り家族の信頼が得られるように取り組んでいる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の段階ではまず施設に慣れて安心して生活出来るよう、安全面を考慮したプランを立てている。2週間を目安に見極めを行い、本人・家族の希望に沿ったプランを立案できるよう取り組んでいる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の生活歴等を参考にし、また残存能力を生かせるようなアプローチを行い、調理や清掃等の家事を中心にスタッフが一緒になって行うよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、毎月新聞を送付、3ヶ月に1回ケアプランの状況を書面にて送付している。時々近況報告の電話をすることもある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力のもと知人の面会の支援を受けている。また、家族支援にて外泊・外出も行っている。  (外部評価) 馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しているが、利用者からの要望は少ない。電話連絡を希望する利用者に対応したり、出張の理容室を定期的に利用するなど、つながりが継続できるよう努めている。お墓参りなどの希望は、家族の協力を得て出かけるよう支援する等、関係継続ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日課の中にみんなで行う事を取り入れ、利用者同士が関わり合える場を設けている。利用者同士が励まし合われることもある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、情報提供書を作成し継続して介護が出来るように配慮している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家庭との問題を抱えた利用者もおられ本人と家族両面の意向に沿った方向性（解決）の支援をしている。	
			(外部評価) 職員は利用者の一人ひとりに向き合いながら、表情や動作をくみ取り、思いや希望の把握に努めている。把握が困難な利用者には、家族等から情報を聞き把握するように努めている。毎月の職員会議で話し合い、日誌に記録するなど職員全員で利用者の思いを共有し、利用者本位のサービスが提供できるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントをもとに生活歴の把握に努めており分からない事は面会時や家族に連絡し訪ねている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常の変化や行動などを観察し記録として残している。気が付いたことは申し送りを通し職員に報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月ケアカンファレンスを開き意見などを出し介護計画を立てている。3ヶ月に1度の見直しも行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、計画作成担当者と管理者を中心に話し合いを行い、介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、同意を得ている。定期的にモニタリングを行い、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 居宅介護サービス計画書に沿った介護記録を記入しその日その時の評価を記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の要望にて外出や相談所への訪問を行っている。個別のニーズに沿ってサービスが提供できるよう受診や買い物等を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 利用者の中には公民館や商工会議所での催しに参加を望む方もおられ定期的な参加を可能な限り支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関の医師の往診を月2回受け、異常時には スタッフ同行のもと受診する。結果を家族に報告して いる。皮膚科・眼科・歯科も受診している。	
			(外部評価) 協力医との連携が密に取れており、利用者や家族の同 意を得て協力医をかかりつけ医とすると場合が多い。 協力医の月2回の往診で利用者の健康管理をしてお り、急変時などの対応ができる体制を整えている。専 門医の受診も職員の同行で利用することができ、利用 者が安心して継続受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回、医療連携の看護師の訪問があり、その都度状 態の報告をして指示を受け、変化があった場合でも速 やかに連絡を取れるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合、当施設より情報提供書を作 成している。入院期間は状況を確認、早期に退院でき るよう努めている。退院時は医療情報提供書を頂き当 施設で安心して生活できるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に緊急時対応希望書を取り家族の意向を確認し ている。入居後も都度希望を再確認している。看取り の方針については入居時に書面とともに説明をしてい る。	
			(外部評価) 看取りの指針を定め、協力医と連携を図りながら取り 組んでいる。状態の変化に応じ、利用者や家族等の意 向をその都度確認をしながら、思いを受け止め納得の いく最期を迎えられるよう支援している。また、急変 時に備え、管理者が事業所に待機するなど迅速に対応 できるよう体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故よってのマニュアルを作っているがまだまだ不十分な点があるので今後もマニュアルを構築していきたい。応急処置に関しては、業務カンファレンス等で周知していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て年2回以上の避難訓練を実施。夜間、昼夜時のマニュアルを作成している。又、近隣住民との密接な対策はとれておらず課題としている。台所がIHであり災害時を想定してカセットコンロや懐中電灯の備えをしている。  (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。各災害に対するマニュアルを整備し、職員の役割分担を確認しながら勉強会等を行っている。日頃から職員全員で防災意識を高めるよう努めている。備蓄品等も用意するなど、利用者の安心、安全な生活を守るため、災害対策に取り組んでいる。	災害時には職員だけの避難誘導には限界があり、今後は地域住民の参加協力を得ながら避難訓練を実施することを望みたい。運営推進会議で事業所を避難場所として利用できるよう提案していることもあり、地域住民への地道な連携への働きかけを継続していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の立場に立つことを第一に考えて行動しているが不十分な点も見られ気が付いた際改善へと努めている。  (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快感や羞恥心に気を配り、声かけや対応を心がけている。職員間で気づいたことは、その都度注意し合っている。利用者一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の中での選択肢について本人の自己決定に耳を傾け尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 年齢を重ねられるにつれ身体機能が低下される方もおられるが出来る事や自己のペースを尊重し一人一人に合った支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服の組み合わせなどについての配慮や定期的な美容院への利用を行っている。入浴後、化粧水など使用する方もおられ都度の利用を支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立にとらわれず個人の好みに変更する対応や各利用者が個食とならない席を配慮しており職員も利用者と交え食事を行っている。本人のペースや形状を考慮し状況により利用者に料理作業や片付けの手伝いを行っている。	
			(外部評価) 行事の時は利用者のリクエストを聞き、好みのメニューを提供するようにしている。職員と利用者が一緒に食卓を囲み、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。利用者は食事の準備や片付けなどできることは職員と一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂取量や食べやすい形状を把握しておりチェック表、記録を残し少ない方には間隔や量を調節している。夏場や入浴後などに失われた水分補給を促すため塩分、電解質が加わった飲み物での補給も実施している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 習慣になっていない方などには声掛け誘導を行い毎食後の口腔ケアを実施している。義歯の方は就寝後洗浄剤の利用、毎週1回の歯ブラシ、コップの消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 棟ごとに4箇所トイレが設けられており各利用者の身体機能、残存能力に応じ排泄場所へ誘導、介助している。また、間隔表にて定期的な回数も把握し便秘予防に努めている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。ユニットに4か所トイレがあり、内2か所は車いすでもゆとりのある広さで利用者の状態に合わせて使用している。利用者の排泄状態に合わせてオムツやポータブルトイレを使用するなど、利用者に合わせた排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 十分な水分、運動にて予防に努めており慢性気味の方については主治医の指示のもと内服薬でのコントロールをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 間隔表をもとに定期的な入浴を行っている。拒否される方も中にはおられ課題として取り組み原因の追究やカンファレンスを開き完全に努めている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、毎日いつでも入浴できる体制をとっている。入浴の苦手な利用者には、入浴した日を間隔表を確認しながら声かけやタイミングを工夫し、無理強いしないよう心地よい入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて、2人体制で介助を行うなど、安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 季節に応じ温度管理を行い、一人一人に合った体位への配慮、良眠を促すため日中適度な運動や活動を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬は基本手渡しにて飲用を確認している。病歴、既往歴、服薬時間、量を一覧に記載し把握に努めている。状態変化が見られる場合、主治医へ連絡、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の出来る事を伸ばし洗濯物や食器洗い、掃除といった活動を楽しみながら支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調や天気に合わせて中庭などの散歩を行っている。定期的な外出も計画しておりどの利用者にも外出を楽しんで頂けるよう支援している。家族の協力を得て外泊を行えた利用者もおられる。	
			(外部評価) 中庭に出て外気浴を楽しんだり運動をしたりして、利用者が自然を肌で感じリラックスできるよう取り組んでいる。近くのスーパーや道の駅に買い物に行くなど日頃から外出できるよう支援している。また、利用者の希望に応じて、家族の協力を得て外出や外泊するなど、家族とふれあう外出支援を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来ない方には施設での金庫で管理をしている。買い物などでの支払いも基本間違いがないよう職員が行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望の限り電話連絡が可能な方には支援している。手紙を利用されている利用者は現在おられない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) フロアには畳や、TV、ソファなどがあり思いのまま過ごして頂いている。時期に応じた飾りつけを行い、日差しなどにも配慮しカーテンの開け閉めを行っている。食後の食べこぼしの都度、掃除の徹底をしている。</p> <p>(外部評価) 高台にある事業所の大きな窓からは、周囲を一望することができる。自然な光が差し込んでくる対面キッチンから、職員は利用者を見渡すことができ、笑顔で会話をする様子が見られた。ソファや畳スペースも設けられ、自由にくつろぐことができる。リビングや廊下の環境整備が行き届いており、利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう空間づくりがされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 定期的な集団活動への参加を呼び掛けしておりフロアなどにて一人になりたい際、余裕のある空間である。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今までに使い慣れた家具や持ち物を持参していただき居心地よく過ごされている。本人の把握している位置などを尊重している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台が備え付けられている。タンスには地震対策のつかえ棒が取り付けられている。居室の壁紙は花模様で、窓から周りの山々を見ることができ、落ち着いた雰囲気となっている。家族の写真を飾ったり、使い慣れた物が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各部屋等に見やすい位置に名前、札を掲示しており一人一人が把握できるようにしている。また、各部屋にベッドや家具が用意されており利用者の中には使い慣れない方もおられベッドから敷布団を利用している方もおられる。</p>	